

麻しん排除

院長

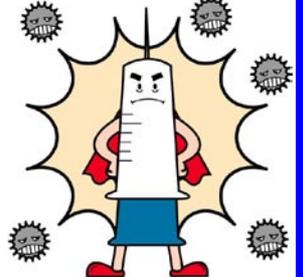
さて久しぶりに麻しん(はしか)の話題を取り上げてみましょう。開業以来発行しているCLINIC NEWSでは、1995年「最近の感染症《特に麻疹について》」で初めて取り上げました。続いて2003年8月号「怖い病気、それは麻疹」、2007年6月号「成人麻しん大流行?!」、2008年「麻しんキャッチアップキャンペーン」と一面記事で4回も取り上げました。もちろんその記事以外でもワクチン特集で何度も取り上げ、麻しんはCLINIC NEWSの中でも大きなテーマとなっていました。

しかし、今年の3月27日に厚生労働省から、「世界保健機関西太平洋事務局により日本が麻しんの排除状態にあることが認定されました。」とのPress Releaseがありました。この麻しん排除ということは、CLINIC NEWSでも度々述べているように、我々小児科医の大きな夢だったのです。

何度も記事で解説してきましたが、麻しんは「命定め」と呼ばれ、昔から多くの子どもたちの命を奪ってきた病気です。さらに伝染力が強く、初期症状がカゼと区別できないこと、そして命だけでなく後遺症を残すような合併症があること、加えて治療が無く、唯一の予防がワクチンであることを伝え続けてきました。その理由は日本は先進国中で最もワクチン接種率が低く、2008年でも患者数が年間1万人を越え、「麻疹の輸出国」という汚名まで着せられていたのです。その結果、2007年策定された、2012年を麻しん排除目標に「麻しん排除計画」が厚生労働省からだされました。計画でもっとも重要なワクチン接種率の向上、加えて接種体制の強化(2回接種等)、患者の全数把握など次々と新しい取り組みがなされ、今回の排除に至りました。CLINIC NEWSの読者は気付いていることですが2003年から紙面下端に「麻疹ゼロキャンペーン」を掲載し、現在の「麻しん風しんゼロキャンペーン『1歳のお誕生日にはMRワクチンを!!』」に受け継がれたのです。

さて、麻しん排除という言葉がありますが、排除というのはどんな意味なのでしょう。ちょっと難し

い話になりますが、少し我慢して読んでください。排除達成の認定基準は、「適切なサーベイランス制度の下、麻疹ウイルス土着株による感染が3年間確認されず、また遺伝子型解析によりそのことが示唆されること」です。麻しんウイルスも様々な種類がありますが、国内固有のウイルスによる感染者が3年間出ないということです。以前とは逆に、流行地から持ち込まれる場合もありますが、予防接種率を95%以上に維持できれば、周囲への感染の広がりを押さえられるといわれています。



ここで重要なのは、予防接種率の維持であることは、おわかりと思います。排除したから終わりということでは無く、この状態を維持することがとても重要なことです。幸い宮城県は2013年度のMRワクチンの接種率が98.6%(仙台市では統計上100%)で全国1位となっています。このことは県民市民のワクチン接種に関する意識の高さと小児科医を中心とした医師の取り組みの賜物です。

ところがここに来て、HPVワクチンの副反応の問題、さらには根拠の無い予防接種無用論などの影響で、摂取率が下がるのを危惧しています。実際に今年に入ってから、麻しん排除国の米国で、次々と麻しんの流行が報じられています。流行の始まりは、ディズニーランド(カリフォルニア)からはじまり、訪れた客、施設の従業員が、次々と麻疹を発症しました。当然のことですが、地元に戻った客が各地で麻疹を発症し、周囲への感染を広げていきました。感染と流行の拡大は、米国内7州で計142人となりました。(3.16日現在)米国医師会「JAMA小児科学」によると、患者が集中して発生したカリフォルニア州、アリゾナ州、イリノイ州では、はしかワクチン接種を受けた子どもの割合は全体の50-86%にとどまり、研究者らの間で「集団免疫」として知られる状態を形成するために必要な接種率95%をはるかに下回っていることが原因であると結論付けています。ワクチン未接種者が発症したことから、「予防接種は自然に反しており、子どもたちは感染症にかかる“権利がある”」と説いていた医師が、州医事当局の調査を受けているという報道もあります。

先にも述べましたが、「麻しん排除」は我々小児科医の長年の夢であり、3月27日は歴史的一日です。しかしこれはあくまでも入り口に過ぎません。米国のような麻しん流行を防ぐためにも、ワクチン接種の重要性を理解して、接種率を維持しましょう。

医学部学生実習

10日(金)

ご協力をよろしくお願ひします。

栄養育児相談

8、22日(水) 13:30~

栄養士担当 参加無料

4月のお知らせ



『がんばろう! 宮城 がんばろう! 日本』
“みんなでやれば、大きな力に”

読者の広場

先月は8通のメールをもらいました。3月～4月は様々な別れと出会いの季節です。卒業、入学、就職、そして転居もあります。そんな区切りの季節の中、北海道から茨城県に転居した、今村さんから写真とともに嬉しい便りをいただきました。「ご無沙汰しております。先生、お変わりございませんでしたでしょうか？10年前までお世話になっておりました今村哲也の母です。覚えていらっしゃるでしょうか？仙台から北海道苫小牧に引っ越し7年、寒さに負けずがんばりました。その後、哲也の高校入学時に主人の転勤で茨城県神栖市に引っ越ししてきました。お陰様で今日、3月14日、高校を卒業させて頂きました。4月からは社会人です。誕生した時からたくさんの方々にご助けて頂いたことに感謝し、今度は自分が人様のお役に立ちたいと介護のお仕事をさせて頂きたいと老人介護施設に就職させて頂きます。先生にお世話になっていた頃は体も細く小さかった哲也ですが、今は肩もがっしりしてきました。身長は160cmくらいになりました。今は教習所に通っています。先月、14日に18才になり、やっと仮免を受けることができ、今は路上教習です。あんなに小さかったてっちゃんも車の運転をするようになった、...、なんだか信じられない感じです。仙台では本当にお世話になりました。先生、お体、くれぐれもご自愛下さいね。もちろん、忘れられない患者さんのひとりです。高校卒業したのに、未だに「哲ちゃん」と呼びそうです。あの東日本大震災のとき、北海道から真っ先に心配とお見舞いのメールをもらったことは、今でもしっかりと記憶に残っています。10年過ぎてもお子さんの成長を報告してくれる、まさに、いつも言ってる「どこに行っても、いつになっても、かかりつけはかかりつけ」を、地でいっている遠く離れたかかりつけ患者さんです。その後の報告で、無事運転免許取得できたようです。また次の報告待っています。ありがとうございました。



続いては、岩手県に転居することになった、宍戸さんからです。世話になったお礼と子どもたちからの手紙を届けてくれました。手紙を画像にしたかったのですが、残念ながら読めないで文章に起こしました。「川村先生へ 琉亜とけいとがいつばいなおしてもらってありがとう。これからいろいろな人がかぜをひいたときなおすのがんばってね。るあもがんばるよ。るあとけいごより」。転居の挨拶来たとき、感極まったのかお母さんが涙を流しました。そのあたたかい思いに応えるために、思い出として記念写真を撮りました。目頭が熱くなり、こちらもウルウルでした。



直接関係ありませんが、掲載記事の紹介を。今月発行のワクチンメーカー広報誌に、「**仙台市ワクチン施策実現のための取り組み**」が掲載されました。右下の写真は、

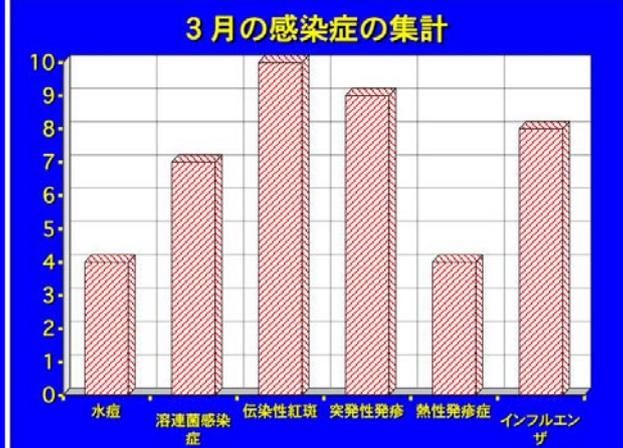


2010年髄膜炎関連ワクチン公費助成のための街頭署名のものです。右端に写っているのが当院の患者さんです。院長が首から下げている注射器も、患者さんの手作りです。患者さん数人の協力ももらいましたが、患者さんが応援に来たのは当院だけでした。こんな形でも、患者さんに支えられていることを知ってもらうために。感謝の気持ちを込めての紹介です。掲載誌は待合室にあるので、手に取ってご覧ください。



臨時休診のお知らせ

日本医学会総会（京都）のため
4月11日（土）・13日（月） 休診となります。
 皆さんにはご迷惑をお掛けしますが、ご理解とご協力を御願いたします。



相変わらずりんご病（伝染性紅斑）と溶連菌感染症が目立つ以外に、特に流行している病気はありません。インフルエンザをグラフに示しましたが、後半はほとんどゼロで、流行は終息しました。

新しいスタッフが入りました

4月から事務スタッフとして、**瀬川里奈**が入りました。まだ不慣れなところも多々ありと思いますが、よろしく御願いたします。

Mail News, Twitter, Blog, Facebook の紹介

Mail News は、500人を越えるお母さんが登録。右上のQRコードから登録できます。件名を「登録希望」とし、登録者の名前とお子さんの名前を記載し送信してください。
 新しい情報発信として **Twitter**、**Blog** 「子どもクリニック四方山話」、**Facebook** ページ、**YouTube** にも取り組んでいます。子育て、医学、趣味、グルメ、旅行記等のおもしろい話題満載。見るだけでも楽しいかもしれません。是非ご覧ください！
 Mail News かなり戻ってきます。届かない場合は kodomo-clinic.or.jp をドメイン指定して下さい。不明な点は受付まで問い合せ下さい。



Twitter



Facebook



MailNews



Blog

編集後記

院長は相変わらず、忙しい日々を過ごしています。先月は13連チャンという新記録を樹立しました。様々な役職が重なり、何と日本外来小児科学会会長まで背負っています。特に医師会関連の仕事で、どうしても休診が増るようになりました。皆さんにはご迷惑をお掛けしますが、よろしくご理解とご協力をお願いします。小児科医誰もが求めていた「麻しん排除」、念願の夢が叶いました。ありがとうございました。



麻疹風疹ゼロ作戦キャンペーン 『1才のお誕生日に麻しん風しん混合ワクチンを』 『お母さんクラブ』 現在会員を募集中です。参加希望は受付まで。！！